

すれば最初の 1 回は有意水準のいかにかわらず、これを除去するがごとき、またレベル、スタヂヤ測量等で休憩の時刻と時間とを勘考するごときである。

- 1) 脚註 安東功：累進個人誤差，土木学会誌，昭.25.2.
- 2) " 12 ブロックの σ の計算値

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII
5.63	2.20	3.66	3.88	3.93	3.30	3.54	4.29	4.28	4.53	3.83	4.59

(1—4) 大学における測量学の教育及び研究について

正員 北海道大学工学部 林 猛 雄

The Society for the Promotion of Engineering Education 主催による Surveying Teacher の Conference (1936) の Round Table Discussions において、次のことが特に強調された。

“Many engineers make the mistake of considering surveying only as a **minor engineering tool**, and fail to recognize either its **intellectual content** or the opportunities it presents for **career work**”

日本の大学の測量学が、(1) 科学的基礎の浅く かつ狭いこと、(2) それが学界及び技術界における 位置の低く 不安定であること、(3) その教育がすこぶる不親切であり、研究が低調であること、(4) 従つてその教育及び研究の量及び質を向上せしめる必要、(5) その発達の諸障害は何に起因するか、(6) 将来測量学の目標及び方向をどこに置くべきか等について、先進諸外国の大学の状況を参考資料として、日本の大学における測量学の教育及び研究の発達に対し私見を述べ次の順序及び項目にわたる予定である。

1. 測量界の現況 測量事業は終戦によつて大きな変化を受けたものの一つである。日本陸海軍の解体にともなう陸地測量部、海軍水路部の移管及び内容変更、建設省地理調査所 (GSI) の誕生及び活動開始、測量技術の商品化及び大衆化運動、測量法の公布、測量審議会の誕生、測量国家試験による測量士及び測量士補の資格の登録並びに転職の制限、これにともなう関係技術者の関心、各種講習会、図書の発行の活潑等、地理調査所の活動は戦前にまさる社会上並びに政治上の力を有し測量はいちじるしく普及するに至つた。

2. 大学における測量学の教育及び研究の現状 大学においては新制となつても教育と研究が密接不離の関係にあることに 변りない。測量の社会への進出に反し、學術の最高位置を占むべき大学の測量学に関する教育及び研究上の進歩はすこぶる遅々として、少なくとも終戦を境としても實質上ほとんど変化はしていない。新制大学の大量生産とともに測量学教官も大量生産されたが、彼等は多くその生涯を託すべき地位を 与えられず単に将来他の専門につくべき踏台として従事するにすぎず、従つて土木工学科の課程において約 10% に相当する時間を費し教育を施しながらその効果は時間に比例せず、研究はほとんど行われていない。また測量技術を支配する測量機械・器具の試験、改良、考案、発明の母胎となるべき何等の試験及び実験設備をも有しない。特に近年の発達にかかる写真測量特に航空写真測量に対しては、教育研究ともに低調であり関心も少ない。

3. 外国の大学における測量学の教育及び研究の状況 米国の工業大学あるいは工学部土木工学科には必ず Surveying あるいは Geodesy の教授を有しており、ドイツの工業大学 (Technische Hochschule) においても、土木工学科 (Fachabteilung für Bauingenieurwesen) 中に Vermessungswesen あるいは Geodäsie の教授を有している。測量学コース (Fachrichtung Vermessungswesen) の卒業試験 (Diplom-Hauptprüfung) を受ける学生も毎年他の専門学と同じく相当にある。

4. 測量学の発達の障害となる原因 日本人の国民性、旧帝大における講座制度、陸地測量部及び地理調査所、専属基盤等と測量学との関係及び発達を阻害する諸原因について述べる。

5. 測量学の将来 旧帝大土木工学科へ測量学講座新設、試験及び実験設備新設、測量国家試験の改良、日本測量学会の設置、写真測量特に航空写真測量の重要視及び普及方策等その他測量学の目標及び方向をどこにおくべきかについて述べる。